

FIGURE 435 FIGURE 11 HIGHWAGING SEMINAL SEMINA

主催: 広島大学健康長寿研究拠点Hiroshima Research Center for Healthy Aging (HiHA)

HIROSHIMA UNIVERSITY

「MAPKシグナルが制御するRNA結合タンパク質」

The RNA-binding proteins regulated by MAPK signaling

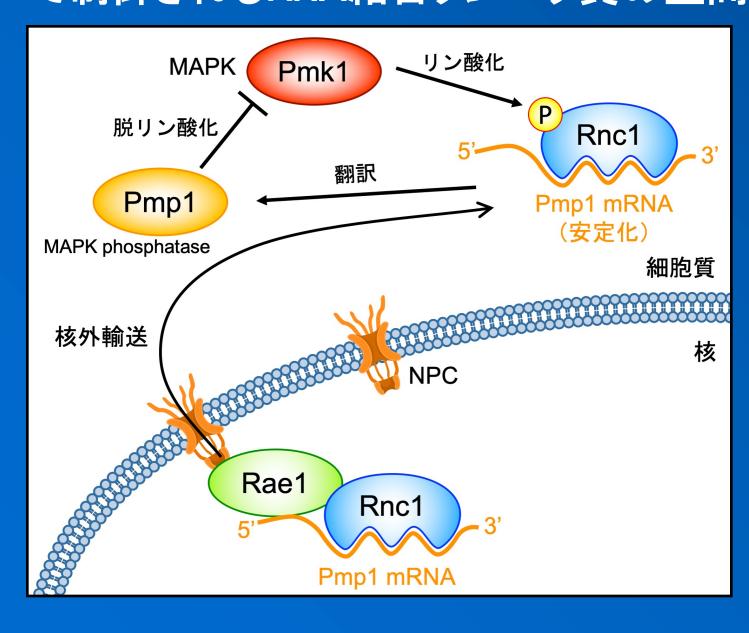
佐藤 亮介博士

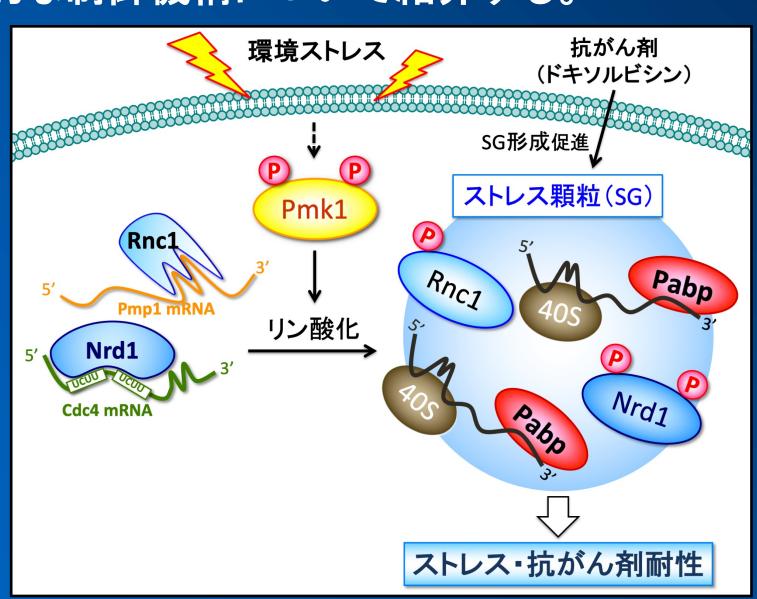
(近畿大学薬学部創薬科学科助教)

(世話人:登田 隆 特任教授 大学院先端物質科学研究科 分子生命機能科学専攻)

≪概要≫

MAPキナーゼ(MAPK)は真核生物に高度に保存されたセリン/スレオニンキナー ぜであり、細胞増殖やがん化、アポトーシス、分化などを制御する極めて重要なシグ ナル伝達分子である。私が所属する研究室では、分裂酵母を用いた遺伝学的スク リーニングにより、MAPKシグナルの制御因子や標的因子を数多く同定している。そ の中でも、RNA結合タンパク質Rnc1とNrd1は、共にPmk1 MAPKによってリン酸化さ れることでRNA結合能が制御される。さらに、Rnc1は標的mRNAと結合することで、 mRNA核外輸送システムにより核外輸送される。また、この核外輸送はRnc1がMAPK シグナルを調節する上で、必須な役割を果たすことを見出した。一方で、Pmk1 MAPKシグナルが活性化するような環境ストレス条件下では、Rnc1とNrd1は共にリン 酸化され、ストレス顆粒(SG)へと局在する。本セミナーでは、MAPKシグナルによっ て制御されるRNA結合タンパク質の空間的な制御機構について紹介する。





※本セミナーは5研究科共同セミナーです

<u>開催日時</u>: 平成 30 年 **12**月 **7**日(金) 15:00-16:00

会場:広島大学先端科学総合研究棟 405N教室

お問い合わせ先

登田 隆: E-mail: takashi-toda@hiroshima-u.ac.jp TEL 082-424-7868